



野池 幸三 (のいけ こうぞう)

大正 15 年 10 月 29 日、長野生まれ。

日本橋「吉野鮨本店」で修行。昭和 40 年、谷中に「すし乃池」を開店し、名物「穴子すし」で有名店となる。現在でも自ら河岸に出向きネタを見極める。その傍ら、町と商店のあり方を常に研究し、谷根千の名物名士として名高い。昨年 10 月には、鮨と町づくりの達人奮闘記「人生っっちゃ、こういうものよ」<ワニプラス>を上梓。現在、谷中地区町会連合会会長、谷中菊まつり実行委員長 などを務める。



浅妻 千映子 (あさづま ちえこ)

1972 年東京生まれ。聖心女子大卒、大手建設会社で 3 年間の OL 生活ののち、フードライターに。著書に『食べたきゃ探そう』(時事通信社)、『東京広尾 アロマフレスカの厨房から』『パティシエ世界』『江戸前「握り」』(すべて光文社)。『東京最高のレストラン』(ぴあ) 採点者としても活躍。パティシエをテーマにしたマンガ『キングスウキーツ』(全 5 巻 小学館) の原案を担当。近年は、自宅で料理教室を開いたり、レシピ集『浅妻千映子キッチン〜体が喜ぶ、簡単レシピ』(ぴあ) も出版。人気サイト「All About」でプラチナレシピのガイドも担当している。

主催者

NPO 法人たいとう歴史都市研究会

「ホッとする 町の歴史と生活文化をつなぐために」

東京、台東区界隈の古い町では、今でも向こう三軒両隣でさりげなく助け合う暮らしの文化が生きています。それを支えてきたのが、いつでも近所に目が行き届く路地や町家のつくりです。道に向けて並ぶ植木棚は、普段の会話のきっかけでもあります。近代化の進んだ今、プライバシーを過度に守ることが、かえって私たちの暮らしを窮屈にしている部分があるのではないのでしょうか。

当会では、私たちの身近にある古い家や町に込められた暮らしの文化を、人びとが共に生きる知恵として見直し、ホッとする町づくりに活かしていきたいと願っています。

〈活動内容〉

- (1) 維持管理・活用運用 具体的な建物の維持管理や活用の企画・提案
- (2) 調査研究 建物、暮らし方、残し方の調査研究
- (3) つどい・勉強会 地域内外の方の啓蒙・交流を目的とした会の運営
- (4) 情報発信 会報やメールなどを通じた地域の情報発信
- (5) 相談・助言 まちと住まいの文化をつなぎ活かす相談や助言

事務局

〒110-0001 東京都台東区谷中 6-1-29 カヤバ珈琲隣
 TEL&FAX: 03-5834-8044 カヤバ事務局
 (不在時は留守電または FAX にてメッセージをお残し下さい)
 E-mail: info@taireki.com ホームページ <http://taireki.com/>

NPO で維持管理を行う 4 棟の建物



市田邸 (上野桜木・明治 40 年築)



カヤバ珈琲 (谷中・大正 5 年築)



平櫛田中邸 (上野桜木・大正 8 年築)



間間間 (谷中・大正 8 年築)

今後の活動予定

10 月 - 11 月 (未定)

○ 歌舞伎 × 市田邸 「歌舞伎の音～浄瑠璃の源流～」(仮題)

市田邸ではお馴染みの、新内の岡本紋弥 & 杉浦聡のお二人が、歌舞伎の舞台を支える浄瑠璃(物語音楽)のエッセンスと魅力を解説を交えてご披露、また知られざる江戸期以来の裏方の世界のお話もうかがえます。

○ 美術 × 市田邸 「美術を遊ぶ！」(仮題)

BS 朝日の美術番組「世界の名画」のプロデューサー・解説者として知られる藤ひさしさんと、<SCAI THE BUTHOUSE> 代表の、白石正美さん(予定)が、教養主義とは一線を画した遊び心のある美術鑑賞の楽しみ方をテーマに、縦横にトークを繰り展げます!

11 月 - 3 月 (未定)

○ 日本酒 × 市田邸

○ 朗読 × 市田邸

○ 女流義太夫 × 市田邸

○ 落語 × 市田邸

12 月

○ もちつき × 市田邸

※各企画は決定次第、随時ウェブサイトなどでお知らせして参ります。